

高齢者のインターネットの交流・活動量に影響する要因 ーインターネット利用で困った時の被援助経験及び援助経験に注目してー

橋本 和幸¹⁾, 桂 瑠以²⁾

了徳寺大学・教養部¹⁾ 川村学園女子大学²⁾

要旨

本研究は、高齢者がネット利用で困った時に援助を受けた経験及び援助した経験の有無、援助を受けた経験の有無、性別、年代によって、インターネットでの交流・活動量が異なるかを調査することを目的とする。このために65歳以上的高齢者1,000名を対象にWeb調査を実施した。そして、インターネットでの交流・活動量を従属変数に、ネット利用で困った時の被援助経験あるいは援助経験の有無を独立変数にマン・ホイットニー検定を行った。この結果、援助を受けた経験があると、多くの年代・性別でメールなどでの人とのやり取りの交流・活動量が有意に多かった。また、援助した経験も有る人の方が、多くの年代・性別でネットでの活動の全てにおいて交流・活動量は多かった。

キーワード：インターネット利用, 対人交流, 高齢者, 援助経験, 被援助経験

Factors affecting elderly people's interactions and activities on the internet: Influence of receiving experience and helping experience when having trouble using the internet

Kazuyuki Hashimoto¹⁾, Rui Katsura²⁾

Center of Liberal Arts Education, Ryotokuji University¹⁾ Kawamura Gakuen Woman's University²⁾

Abstract

This study investigated whether the amount of interaction and activity on the Internet differs depending on the experience of receiving help when elderly people have trouble using the Internet, whether or not they have received assistance, whether they have received assistance, gender, and age. For this purpose, we conducted a web survey of 1,000 elderly people aged 65 and over. Mann-Whitney test was performed with the amount of interaction and activity on the Internet as the dependent variable. This resulted in the following two points 1. In many age groups and genders, those who had experience of receiving support for using the Internet had significantly more exchanges and activities through e-mails. 2. People who have experience of helping them use the Internet had more interactions and activities in all Internet activities in many age groups and genders.

Keyword: internet use, interpersonal interaction, elderly people, experience of giving aid, aided experience

1. 問題

高齢者の外出や会話の少なさは、閉じこもり、要介護移行、死亡の発生を高めるリスク要因と考えられている^{1) 2)}。しかし、高齢者の外出や対面対話の機会は、加齢による体力低下や近年の新型コロナウイルス感染症への不安から制限されている。こうした状況の下で対人交流を促進する方法として、例えばインターネット（以下ネット）の利用が考えられる。高齢者のネット利用と対人交流に関する研究はまだ少ないとされている³⁾が、例えば中塚⁴⁾は地域限定のソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）

の閲覧や投稿により、60代以上でも交友関係が広がり、深まったという結果を紹介している。杉山・桂³⁾は、65～75歳の老年期ではネット利用が多いほどオフラインでの対人交流が増加し、心理的引きこもりが低下する効果を認めている。さらに桂・橋本⁵⁾では、60代ではメールやSNSの使用が多いと社会的活動が増加していた。70代と80代ではメールの使用が多いと、社会的活動を介して精神的健康が高まることが示唆された。このように、高齢者がネットを利用する量が多いと、対面での対人交流も増えるのではないかと考えられる。

しかし、総務省⁶⁾によると、一般的に高齢者のネット利用率は他の世代に比べて低く、例えば 2020年度は、18～59歳で9割を超えるのに対して、60～69歳は82.7%、70～79歳は59.6%、80歳以上は25.6%であった。また、その利用内容も電子メールの送受信や情報検索に限られている。このため、ネット利用に不安がある高齢者向けの支援が必要である。山埜ほか⁷⁾は、高齢者は支援を受けるだけでなく提供する機会もあった方が、心理面や行動面に肯定的な影響がみられると指摘している。このため、高齢者にネット利用の支援を行う際も、援助を受けるだけではなく、自分が他者を援助する機会が有った方がうまくいくのではないかと考えられる。

このことから、高齢者には一方的に援助されるだけではなく自分が援助することも重要であることや、独居高齢世帯の増加で相談できる若年者が近くにいない可能性があることを考慮して、ネット利用に関する高齢者同士の援助経験と被援助経験とネット利用の関連を検討することとした。

本研究では、ネット利用のうち、冒頭に挙げた対面での交流機会の減少を補う使い方を一日に行う時間数を、ネットでの交流・活動量として数値化し、高齢者がネットでの交流・活動時に他者の援助を受けたり他者を援助したりする互助の経験によって異なるかを検討することとした。ネットでの交流・活動の内容は、他者とのやり取りや一緒に何かを行う使い方を想定した。

その他の要因として、深谷ほか⁸⁾やWeb調査を行った澤岡ほか⁹⁾で、電子メールの利用は女性が多く、ネット利用は男性の方が多いという結果であったことを踏まえて、男女による違いも検討する。そして、前出の総務省の調査⁶⁾で60代、70代、80代でネット利用率に違いがあったことから、年代別の比較も検討する。

2. 方法

(1) 倫理審査及び利益相反について

本研究は、調査実施者が所属する機関で倫理審査を受けて承認された内容に沿って実施した（研究倫理番号3043）。また、研究に直接関係する利益相反はない。

(2) 調査時期と調査対象者

2021年10月1日から3日に、株式会社クロスマーケティングが保有する全国のアンケートモニターから、全国47都道府県在住の65-89歳の1,000名（男女500名ずつ）を調査協力者として募った。これに応じた1,000名（65-69歳：414名、70-74歳：312名、75-79歳：104名、80-84歳：128名、85-89歳：42名）を対象にWeb調査を実施した。

本研究はネットを利用している人が対象となるため、Web調査に応じられた調査協力者はその条件を間違いなく満たしていると言える。一方、Web調査会社に登録してそこからの募集を観て自ら調査に参加しているということで、ネットを利用する人たちの中でもその能力が相当に高い人たちであると考えられる。

(3) 調査内容

高齢者のネットでの交流・活動量に関する要因を検討するために、目的別のネットでの交流・活動量、ネットについて困った時に他者に助けてもらったこと、ネットについて困った時に他者を助けたこと、性別、年齢について質問をした。

1) 目的別のネットでの交流・活動量

①メール、SNS (LINEなど)、コミュニティサイト (mixiなど) での人とのやりとり、②ネットでの趣味、娯楽に関する活動、③ネットでの学習活動 (オンライン授業、eラーニングなど)、④ネットでの仕事、就業活動 (テレワークなど) の4点について、「1日にどのくらいの時間、次のネットでの交流や活動を行っているか」を「1:使っていない」「2:1秒～5分未満」「3:5分～15分未満」「4:15分～30分未満」「5:30分～1時間未満」「6:1時間～2時間未満」「7:2時間以上」の7肢択一で回答を求めて、ネットでの交流・活動量とした。それぞれ質問項目は、総務省³⁾のインターネットの利用目的を参考に独自作成した。

2) ネットで困った時の被援助経験及び援助経験の有無

ネットで困った時の被援助経験の「ある・ない」を「インターネットのことで自分が困ったとき、同世代の周りの人に助けてもらったことがある」という質問で尋ねた。一方、ネットで困っている人の援助経験の「ある・ない」を「ネットのことで周りの同世代の人が困っていて、助けたことがある」という質問で尋ねた。

3) 年代

調査協力者のうち、65-69歳を60代、70-74歳と75-79歳を70代、80-84歳と85-89歳を80代に分類した。

(4) 分析

目的別のネットでの交流・活動量を評価値とした。評価値について、ネットのことで困った時に助けてもらった経験 (被援助経験) の有無あるいはネットのことで困った時に助けた経験 (援助経験) の有無を独立変数とするマン・ホイットニー検定を行った。詳細は結果に記載する。

3. 結果

(1) 目的別のネットでの交流・活動量とネットで困った時の被援助経験、性別、年代との関連

目的別のネットでの交流・活動量を「1:使っていない」1点、「2:1秒～5分未満」2点、「3:5分～15分未満」3点、「4:15分～30分未満」4点、「5:30分～1時間未満」5点、「6:1時間～2時間未満」6点、「7:2時間以上」7点として得点化して従属変数とし、ネットのことで困った時に助けてもらった経験 (被援助経験) の有無を独立変数とするマン・ホイットニー検定を行って関連を検討した。その際に、性別と年代 (60代、70代、80代) による違いを見るために、性別と年齢ごとに検定を行った (表1参照)。

メール、SNS (LINEなど)、コミュニティサイト (mixiなど) での人とのやりとりでは、60代・男性 ($Z=-3.09$, $p<.05$), 70代・男性 ($Z=-3.55$, $p<.001$), 70代・女性 ($Z=-4.32$, $p<.001$) で有意差が見られ、いずれも被援助経験が有る人の方が交流・活動量が多かった。

ネットでの趣味、娯楽に関する活動では、60代・女性で有意差が見られ ($Z=-2.22$, $p<.05$) , 被援助経験が有る人の方が交流・活動量が多かった.

ネットでの学習活動では、60代・男性 ($Z=-2.65$, $p<.01$) と60代・女性 ($Z=-2.02$, $p<.05$) で有意差が見られ、ともに被援助経験が有る人の方が交流・活動量が多かった.

ネットでの仕事、就業活動では、60代・男性で有意差が見られ ($Z=-2.67$, $p<.01$) , 被援助経験が有る人の活動量が多かった.

表1 被援助経験, 性別, 年代ごとの目的別のネットでの交流量及び活動量

質問項目	被援助経験	性別	年齢	人数	平均値	中央値	標準偏差
メール、SNS、コミュニティ サイトでの人とのやりとり	有	男	60代	69	2.80	2.00	1.41
			70代	58	2.81	3.00	1.36
			80代	21	2.33	2.00	1.16
		女	60代	83	2.75	3.00	1.42
			70代	74	3.11	3.00	1.19
			80代	19	2.16	1.00	1.46
	無	男	60代	137	2.23	2.00	1.30
			70代	151	2.11	2.00	1.24
			80代	61	2.28	2.00	1.56
		女	60代	121	2.46	2.00	1.29
			70代	130	2.35	2.00	1.28
			80代	65	2.25	2.00	1.43
ネットでの趣味、 娯楽に関する活動	有	男	60代	69	3.13	3.00	1.79
			70代	58	2.45	2.00	1.73
			80代	21	2.29	1.00	1.62
		女	60代	83	2.57	2.00	1.75
			70代	74	2.22	1.00	1.69
			80代	19	2.21	1.00	1.44
	無	男	60代	137	2.71	2.00	2.04
			70代	151	2.45	1.00	1.95
			80代	61	3.20	3.00	2.16
		女	60代	121	2.15	1.00	1.86
			70代	130	1.98	1.00	1.62
			80代	65	1.86	1.00	1.58
ネットでの学習活動	有	男	60代	69	1.57	1.00	1.24
			70代	58	1.26	1.00	1.00
			80代	21	1.43	1.00	1.43
		女	60代	83	1.42	1.00	1.08
			70代	74	1.24	1.00	0.76
			80代	19	1.58	1.00	1.43
	無	男	60代	137	1.19	1.00	0.68
			70代	151	1.32	1.00	0.99
			80代	61	1.20	1.00	0.70
		女	60代	121	1.21	1.00	0.81
			70代	130	1.15	1.00	0.70
			80代	65	1.18	1.00	0.77
ネットでの仕事、就業活動	有	男	60代	69	1.81	1.00	1.72
			70代	58	1.31	1.00	1.01
			80代	21	1.19	1.00	0.87
		女	60代	83	1.45	1.00	1.27
			70代	74	1.14	1.00	0.67
			80代	19	1.37	1.00	1.12
	無	男	60代	137	1.32	1.00	1.13
			70代	151	1.23	1.00	0.95
			80代	61	1.05	1.00	0.38
		女	60代	121	1.24	1.00	0.96
			70代	130	1.12	1.00	0.61
			80代	65	1.08	1.00	0.44

(2) 目的別のネットでの交流・活動量とネットで困った時の援助経験, 性別, 年代との関連

目的別のネットでの交流・活動量を(1)と同じように得点化して従属変数とし、ネットのことで困った時に助けた経験(援助経験)の有無, 性別, 年代(60代, 70代, 80代)を独立変数とするマン・ホイットニー検定を行って関連を検討した。その際に, 性別と年代(60代, 70代, 80代)による違いを見るために, 性別と年齢ごとに検定を行った(表2参照)。

メール, SNS (LINEなど), コミュニティサイト (mixiなど)での人とのやりとりでは, 60代・男性 ($Z=-3.77, p<.001$), 60代・女性 ($Z=-2.16, p<.05$), 70代・男性 ($Z=-3.45, p<.001$), 70代・女性 ($Z=-2.50, p<.05$), 80代・男性 ($Z=-2.71, p<.01$), 80代・女性 ($Z=-2.36, p<.05$)と全ての年齢・性別で有意差が見られ, いずれも援助経験が有る人の方が交流・活動量が多かった。

ネットでの趣味, 娯楽に関する活動では, 60代・男性 ($Z=-2.93, p<.01$), 70代・男性 ($Z=-2.88, p<.01$), 70代・女性 ($Z=-2.50, p<.05$), 80代・女性 ($Z=-2.48, p<.05$)で有意差が見られ, 援助経験が有る人の方が交流・活動量が多かった。

ネットでの学習活動では, 60代・男性 ($Z=-2.22, p<.05$), 60代・女性 ($Z=-2.69, p<.01$), 70代・男性 ($Z=-2.05, p<.05$), 70代・女性 ($Z=-2.52, p<.05$)で有意差が見られ, いずれも援助経験が有る人の方が交流・活動量が多かった。

ネットでの仕事, 就業活動では, 60代・男性 ($Z=-2.25, p<.05$), 70代・女性 ($Z=-2.68, p<.01$), 80代・女性 ($Z=-2.55, p<.05$)で有意差が見られ, いずれも援助経験が有る人の活動量が多かった。

表2 援助経験、性別、年代ごとの目的別のネットでの交流量及び活動量

質問項目	援助経験	性別	年齢	人数	平均値	中央値	標準偏差
メール、SNS、コミュニティ サイトでの人とのやりとり	有	男	60代	104	2.78	2.00	1.49
			70代	85	2.69	3.00	1.41
			80代	21	2.95	3.00	1.43
		女	60代	81	2.79	3.00	1.26
			70代	56	3.09	3.00	1.27
			80代	19	2.95	3.00	1.65
	無	男	60代	102	2.05	2.00	1.11
			70代	124	2.04	2.00	1.67
			80代	61	2.07	1.00	1.41
		女	60代	123	2.44	2.00	1.39
			70代	148	2.45	2.00	1.27
			80代	65	2.02	1.00	1.29
ネットでの趣味、 娯楽に関する活動	有	男	60代	104	3.20	3.00	1.94
			70代	85	2.91	2.00	2.05
			80代	21	3.38	4.00	2.04
		女	60代	81	2.53	1.00	1.84
			70代	56	2.48	1.50	1.76
			80代	19	2.63	3.00	1.74
	無	男	60代	102	2.49	1.00	1.94
			70代	124	2.14	1.00	1.70
			80代	61	2.82	2.00	2.07
		女	60代	123	2.18	1.00	1.80
			70代	148	1.91	1.00	1.58
			80代	65	1.74	1.00	1.44
ネットでの学習活動	有	男	60代	104	1.44	1.00	1.07
			70代	85	1.45	1.00	1.22
			80代	21	1.29	1.00	0.78
		女	60代	81	1.51	1.00	1.17
			70代	56	1.34	1.00	0.92
			80代	19	1.58	1.00	1.35
	無	男	60代	102	1.19	1.00	0.73
			70代	124	1.20	1.00	0.79
			80代	61	1.25	1.00	0.99
		女	60代	123	1.15	1.00	0.70
			70代	148	1.12	1.00	0.62
			80代	65	1.18	1.00	0.81
ネットでの仕事、就業活動	有	男	60代	104	1.72	1.00	1.66
			70代	85	1.34	1.00	1.05
			80代	21	1.19	1.00	0.87
		女	60代	81	1.52	1.00	1.47
			70代	56	1.29	1.00	0.95
			80代	19	1.47	1.00	1.17
	無	男	60代	102	1.25	1.00	0.95
			70代	124	1.19	1.00	0.90
			80代	61	1.05	1.00	0.38
		女	60代	123	1.20	1.00	0.74
			70代	148	1.06	1.00	0.44
			80代	65	1.05	1.00	0.37

4. 考察

(1) ネットでの交流・活動量とネットで困った時の被援助経験の有無との関連

被援助経験の有無の影響は、「メール、SNS、コミュニティサイトでの人とのやり取り」「ネットでの趣味、娯楽に関する活動」「ネットでの学習活動」「ネットでの仕事、就業活動」と全ての活動で見られた。いずれも被援助経験が有る方が交流・活動量が多かった。

ただし、年代・性別による違いが見られた。具体的には、60代では男性が3つの活動、女性が2つの活動で被援助経験が有る人の方が交流・活動量が多かった。しかし、70代では男女とも「メール、SNS、コミュニティサイトでの人とのやり取り」のみに影響が見られ、80代では男女ともどの活動にも影響が見られなかった。

この結果は、本研究では援助をしてくれる相手を高齢者としたため、60代ならば援助してくれる同年代が多いが、70代、80代になると身近に援助してくれる同年代が少なくなることが影響した可能性が考えられる。特に80代では援助を受けなくてもネット利用をできる状態でないと、交流・活動量が増えないことも考えられる。また、60代は70代以降に比べて現在および現役時代にパソコンやネットを使って仕事をした経験が有る人が多いため、ネットでの活動を取り入れやすいのかもしれない。

(2) ネットでの交流・活動量とネットで困った時の援助経験の有無との関連

援助経験の影響は「メール、SNS、コミュニティサイトでの人とのやり取り」「ネットでの趣味、娯楽に関する活動」「ネットでの学習活動」「ネットでの仕事、就業活動」と全ての活動で見られた。いずれも経験が有る方が交流・活動量が有意に多かった。このことから、他者を援助できるくらいにネット利用のスキルを持っていると、ネットでの交流や活動を積極的に行って、交流・活動量が多くなるのではないかと考えられる。また、高齢者をネット利用ができない、教えてあげなければいけないと一方的に援助する対象と考えずに¹⁰⁾、できることに注目して教える側に回る経験をさせることも重要ではないかと考えられる。

(3) 今後の課題

まず、調査方法についての課題を挙げる。方法で述べた通り、本研究はWeb調査会社に登録した人を調査協力者にしており、ネットを利用する人の中でもかなり能力が高い人たちの回答をもとした結果になっている。そこで、調査対象者を本研究で対象になった人よりも簡単な用途での利用する人も含まれるようなものにする工夫が必要であると考えられる。そのための方法として、対面での質問紙調査などを行うことが考えられる。

次に、年代別の分析については、深谷ほか⁸⁾が指摘するように、単純に年齢によるものか、ネットに初めて触れた年齢など別の条件が関係するのかを検討する必要があると考えられる。

さらに、同居者の要因を考慮する必要があると考えられる。例えば深谷ほか⁸⁾では、ネット利用は同居者がいた方が増えるが若年者が同居すると減っていた。このため、同居者の有無やその構成などを調査項目に含めることを検討したい。

最後に、被援助経験及び援助経験を調査する項目についての課題として、ネット利用で困った時に、どのような種類の被援助経験及び援助経験の影響が大きいかなどを確認する必要があると考えられる。さらに、援助を受ける対象が家族かそれ以外かによる効果の違いがある¹¹⁾ので、ネット利用で困った時に援助してくれた人が誰かによる比較も必要であると考えられる。

5. 文献

- 1) 渡辺美鈴, 渡辺丈眞, 松浦尊磨ほか (2007) 生活機能の自立した高齢者における閉じこもり発生の予測因子. 日本老年医学会雑誌. 44(2), 238-246.
- 2) 新開省二, 藤田幸司, 藤原佳典ほか (2005) 地域高齢者におけるタイプ別閉じこもりの予後. 日本公衆衛生雑誌. 52(7), 627-637.
- 3) 桂瑠以, 杉山明子 (2020) インターネットの利用による心理的引きこもりの低減効果の検討－青年期から老年期の世代間比較－. 日本教育工学会誌. 43(4), 397-408.
- 4) 中塚雅也 (2011) 地域づくり活動に対応した集落 SNSの開発と効果. 農林業問題研究, 47(2), 220-226.
- 5) 桂瑠以, 橋本和幸 (2019) 高齢者のインターネットの使用が社会的活動及び精神的健康に及ぼす影響の検討. 情報メディア研究. 18(1), 1-12.
- 6) 総務省 (2021) 令和3年版情報通信白書. <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/pdf/index.html> (2022.10.17 15:30アクセス)
- 7) 山埜ふみ恵, 草野恵美子, 吉田久美子 (2016) 地域在住高齢者のソーシャルサポートの授受に関する文献検討. 大阪医科大学看護研究雑誌. 6, 94-103.
- 8) 深谷太郎, 小林江里香, 杉澤秀博ほか (2016) 高齢者の電子メールおよびインターネット利用に関連する要因. 老年社会科学. 38(3), 319-328.
- 9) 澤岡詩野, 袖井孝子, 森やす子ほか (2014) 高齢者の非親族との電子メールを介した交流の特性. 社会情報学. 2(3), 15-26.
- 10) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 (2007) 高齢者・障害者のICT利活用の評価及び普及に関する調査研究 報告書.
- 11) 柳澤理子, 馬場雄司, 伊藤千代子ほか (2002) 家族および家族外からのソーシャル・サポートと高齢者の心理的QOLと関連. 日本公衆衛生学会雑誌. 49(8), 766-773.

付記

本研究は、科学研究費補助金（課題番号21K02836）を受けた研究の一部である。

2022年12月28日 受理
了徳寺大学研究紀要第17号